

ギ列彦とソツキート編輯及び支那のロレタリヤ中心とす
ロレタリヤ勢力との対立及びその結果として日本等の諸帝國と
間の相互の対立は益々大規模にして平等を中心とする第二次の世界戦
争の危機は正に来りつつある。
以上の如き情勢は必然に労働大衆の組織化を促すには四重がない。最
近を翼の大衆は勿論右翼中間幹部の公平下にある労働大衆の資本家
級に対する抗争が未だかつて見ざる多数の労働者ギとなつて現れ
るの多量加入員の如きは従来に見ざる多数を示してゐる。此れは正
なる大衆が資本家地主階級との正面衝突の爲めに立ち上つたこ
とを示すものであり大衆の階級平等化を實現化する物語るものに外
ならぬ。支配階級は右の如き一般情勢に直面して如何なる政策を
つて臨んでゐるか此れは誠に明白である。一言として云へば産業の合理
化政策である。而して労働者農民無産市民の生活の刷新を以て
り起る反抗を抑止せんがために彼等は徹頭徹尾偽善政策を以
て臨む。反動的労働組合立法反動的小作法を企圖し予供をま
の失業対策醫學法改正を宣傳する。他方其の偽善に乗らな
い幾千的労働大衆に対してはその反抗の源泉としての言論集ま
出版結社に対して益々加重する弾圧を加へつゝある。

第二節 我々の仕事

以上の如き情勢の下にある我々は日常不断に労働者農民
無産市民の利益の剝奪と平に日常利益を奪はし之を伸張し
なければならぬ。労働者農民無産市民の政治的自由に對す
る抑圧と平に之等の政治的自由を平に取りねばならぬ。
帝國主義戦争の危機と平に戦争の濫用から無産階級を救
ふはなくてはならぬ。

- 之等の仕事を遂行するにはまとして以下数項の事業が敢行さ
なければならぬ
- イ 未組織大衆の組織化
- ロ 労働組合農民組合の拡大強化
- ハ 戦線の幾千的統一

第三節 我々の仕事を如何にして

果すかー運動方針・一般原則

我々は労働者農民に立脚して幹部をかせや議員をかせの運
動方針には反対する。何となれば幹部や議員をかせの運動は
必然に妥協調主ギに陥り大衆の眞の意思を蹂躪し大衆
を幾千的に訓練することには不可能ならしめるからである。
我々の展開すべき諸戦争は互に相闘してゐる。例へば戦
争反対と青年組織或は日常戦争と組合の拡大強化等の